

東京都高体連体操女子専門部申し合わせ事項（体操競技）

2022年4月

※以下の申し合わせ事項は、学年別大会、秋季大会に限る。

●参加資格

- ・本年度、高体連体操専門部加盟校の所属で、東京都体操協会の選手登録を完了した者。
(ただし、当該年度の関東高等学校体操競技選手権大会・全国高等学校体操競技選手権大会の参加資格を有したものの、及び、出場したものは参加資格がない。)

●器械寸度（会場の都合により若干の変更がある）

- ・跳馬：床面より125cmの跳馬を用意する。
- ・段違い平行棒：高棒は床面より 255cm、低棒は床面より 175cmとする。(2022年度より変更)
- ・平均台：床面より125cmとする。
- ・ゆか：12m×12mとする。

※跳馬、段違い平行棒、平均台では、着地点に会場で準備された10cm着地用マットを使用しなければならない。
(20cmエバーマットでもよいが、併用はできない。)

●採点に関して

- ・日本体操協会制定の 2022年版女子採点規則（変更規則I） 及び、(公財)日本体操協会HP掲載の最新情報を適用する。ただし、一部東京都高体連ルールとして、以下のように変更する。

① 終末技ボーナスを以下のように変更する。

- ・ $A=0.3$ $B=0.5$ C 以上 $=0.7$

② 【跳馬】

- ・着地前に、跳馬上に頭や手の平以外の身体の一部が触れた場合
 $D=1.0$ $E=5.0$

③ 【段違い平行棒】

- ・以下の技を承認する。
高棒前振り逆上がり=A
低棒での終末技（難度表に記載のある難度で承認。）

④ 以下の技を終末技で実施した場合、「落下の減点はなし」とする。ただし、終末技なし・DVは7つまでしか数えない。

- 【段違い平行棒】フット下り 【平均台】ロンダート下り

※ゆかのアクロバットの数え方は、一般規則に準じます。

●確認事項

＜器械の変更について＞ 採点規則「器械器具に関して」参照

- ・機械の高さを変えることはできない。(但し、身体的理由により規定の高さでは床に接してしまう場合は除く)
⇒段違い平行棒で選手の足や尻がマットに触れてしまう場合、審判長からの書面での許可により段違い平行棒の両棒を(それぞれ5cm)上げることができる。代表者会議までに段違い平行棒の棒を上げるための申請を主催者へ書面にて提出しなければならない。

<引率者について>

- ・各班のコール時に引率者（顧問）が不在の場合は、練習及び大会参加は出来ない。引率者は当該校の教諭とする。

<選手変更について>

- ・代表者会議（生徒でも可）以降の選手変更はできない。

<チームリーダーについて>

- ・競技場に入れるチームリーダーは、個人、チームごとに各校1名とする。

<団体総合について>

- ・同一チーム内で個人総合の権利を2名以上消失した場合、団体総合の権利も失うこととなる。

<撮影について>

- ・競技中の撮影については、あらかじめ主催者側に申請した者に限る。